

石川県七尾美術館だより

平成18年10月1日発行
編集・発行 石川県七尾美術館

第47号(秋号)



ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM

2006
イタリア・ボローニャ
国際絵本原画展

「チャッピーの家」 今井 彩乃（日本）



展覧会紹介

平成18年9月23日(土・祝) ~ 12月27日(水)

休館日については裏表紙をご覧ください

「2006イタリア・ボローニャ

国際絵本原画展」

11月3日(金・祝) ~ 12月3日(日)

【会期中無休】

◆ 第一・第二・三展示室

毎年春、イタリア北部の古都ボローニャでは、世界で唯一の児童図書見本市「ボローニャ児童図書展」が開催されます。会場では世界各国の出版社がブースを構え、版権の売買などを行うため、児童図書の最新動向を知ることのできる貴重な機会となっています。そして、この見本市のイベントの一つとして一九六七年から絵本原画のコンクールが開催されています。



「ジェノヴェッファ、街へ行く」
クリスティーナ・ピエロバン (イタリア)

このコンクールは絵本のために描かれた五枚一組の原画を審査するもので、物語のためのイラストを描くフィクション部門と、図鑑など教育を目的とするノンフィクション部門で募集されます。無名の新人から既に活躍している作家まで十六歳以上であれば誰でも応募でき、公平に審査されることから、新人イラストレーターの登竜門として注目されています。見本市終了後、これらの入選作品は「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」として、日本にも紹介されます。一九七八年に初めて兵庫県西宮市大谷記念美術館で開催され、



「動物たち」
パオラ・ミリアーリ(イタリア)

当館では一九九八年以降毎年開催し九回目を迎えます。二〇〇六年は世界五十九カ国、二五四四人の応募作品から、国籍の異なる五人の審査員による厳正な審査の結果、フィクション・ノンフィクション部門を合わせて、十六カ国、九十二人の作品が選ばれ、計四五三点を展示します。

近年、日本人応募者の増加が著しく、今年は開催国であるイタリアに続く応募者数を記録し、過去最高の二十七人も入選者が誕生しました。フランスの出版社がボローニャ展入選者シリーズを立ち上げ、日本人入選者の出版が決定するなど、ぞくぞくと海外での出版契約が成立しています。

世界中の人々に届けられる絵本は、作り手である作家やイラストレーター、翻訳家、編集者、出版社といった多くの人の関わりによって誕生します。そして子どもたちと母親に代表される読者と読者をつなぐものとして、多くの読者に愛されています。



「おぼけ電車のロージ」
フィリップ・ウェヒター(ドイツ)

今年皆さんにご紹介する、伝統的な技法に若々しい発想、オリジナリティーに溢れる作品やエキゾチシズムで作者の文化的背景を感じる作品、これらの意欲的な原画が絵本になったら…、きっと読者の世界は無限に広がるでしょう。

【特別展示】

今年の特別展示は二〇〇五年、プラティスラヴァ

世界絵本原画展グランプリを受賞したイランのアリレザ・ゴルドゥズィヤンです。イランの首都テヘラン生れの三十歳。大学でグラフィックデザイン、イラストレーションを学び、本国で二〇〇三年に絵本デビュー。翌年には『暗い夜』でボローニャ展に入選し、当館でも作品が紹介されました。現在彼の絵本はイラン国外でも出版されています。これまでの作品から二十七点を紹介します。



「クマ」アリレザ・ゴルドゥズィヤン(イラン)

【追加情報】

会場に設けた「ボローニャ児童図書展を訪れた入選者の声」を紹介するコーナーや、DVDコーナー『The Universe of Picturebooks』(約二十五分)では、今年の入選をきっかけにボローニャを訪れた日本人入選者の感想や、活気溢れる見本市会場の空気をお届けします。また、会場に展示してある入選作品や入選作家による絵本、おススメ絵本などを自由に手にとってご覧いただけます。

◇観覧料

	一般	個人	団体
大高生	700円	600円	300円
中学生以下無料・団体は二十名以上です。	350円		

※中学生以下無料・団体は二十名以上です。



「ミミズくん」
キラレイ・レーカ(ハンガリー)



「あたまのうえからせかいを
みわたせば」
たかいよしかず(日本)

●銅版画でメリークリスマス!!●

石川・富山在住の2006ボローニャ入選者（銅版画家）を講師に迎え、ドライポイントの技法でクリスマスカードを制作し、素敵にデコレーションします。大切なあの人に…いかがですか？

開催日 11/19（日）

時間 午前10時～12時 午後2時～4時

対象 小学生以上

定員 各10名（要申込）

持ち物 筆記用具など 参加費 1,000円

講師 釣谷幸輝氏、広瀬ひかり氏、荒川恵子氏



①



②



③

なんと3人で応募した初ボローニャで、そろって入選された石川富山の銅版画家にインタビュー。広瀬ひかりさん（石川）、釣谷幸輝さん（富山）、荒川恵子さん（富山）は金沢の「湯涌創作の森」にて制作活動をされています。

今後の活躍にもご期待!!

Q：応募のきっかけは？

釣：地方にいと、出版社に売り込み、というのはなかなか億劫になりがちです。とりあえずこれが、絵本をつくるきっかけになれば、と考え応募しました。

広：以前から興味があって。

荒：広瀬さんに応募を勧められ、「駄目で元々!」と思い切って応募しました。

Q：入選を知った時の感想をお願いします。

釣：自分を含め、まわりの人がみんな入選されていたので、「案外簡単なんだ」と思っていました。でも実は大変だったんですね!後で講評を聴いて、自分がラッキーだったのだと分かりました。

広：やったー。

荒：入選できるとは思っていなかったので、入選の連絡を受けた後もしばらくの間落ち着かず、とても不思議な気持ちでした。

Q：入選後、何かいいことはありましたか。

釣：海外から多くの問い合わせや、仕事きたことにびっくりです。

広：具体的な事はまだ決まっていますが・・・いいことはありました。

荒：以前よりも銅版画が好きになりました。作品を通して作品や自分自身を客観的に見つめる事が以前より出来るようになったと思います。

Q：好きな芸術家。

釣：たくさんいますが、あえて言うなら、銅版画家の長谷川潔でしょうか。

広：荻内佐斗司さん。 荒：アンディ・ウォーホール。

Q：好きな絵本作家。

釣：入選してから、いろいろ探そうになったのですが、やはり大御所オールズバーク、ピネッテ・シュレーダー、安野光雅、五味太郎など。

広：センダック。 荒：レオ・レオーニ、せなけいこ、長新太。

Q：好きな絵本。

釣：オールズバークの『ハリス・ハーディックの謎』。なんともいえない読後感覚が好きです。

広：『チキンズ・ブライスいり』。

荒：レオ・レオーニ『せかいいちおきなうち』、せなけいこ『おぼけのてんぷら』。

Q：「2006イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」の感想をどうぞ。

釣：毎回いろいろな個性、パワーを感じます。世界中の人が観ているのだと、今回感心させられました。

広：版画が多かったなあ。

荒：どの作品も美しく素晴らしく、まるで異なる世界を旅している気分になりました。

Q：ボローニャ展入選を目指す人にアドバイスをお願いします。

釣：その年の審査員の好みが大きく作用するようには思いません。まわりの評価を気にせず、自分のつくりたいものをしっかりつくることではないでしょうか。

広：出品枚数の5枚の原画以外にもきちんとストーリーを作り、ボローニャにまで行くべきなのだな・・・（反省）

荒：まず!応募しましょう!

Q：すばり、銅版画の魅力を一言で!!

釣：「眼の快楽」。 広：たくさん刷れる!

荒：銅版画特有の雰囲気や深みのある線に魅力を感じます。

①「憂鬱な動物たち」釣谷幸輝

②「とっても小さな魔女」荒川恵子

③「蛙の王国」広瀬ひかり



写真左より、荒川さん、広瀬さん、釣谷さん

●かんたん絵本を作ろうよ!●

【参加無料】

いらなくなったポスターやカレンダーなどの裏面を利用して冊子を作り、ストーリーを考え、自由に飾りつけてオリジナル絵本を作ります。

開催日 11/11（土）、12/2（土）、18（土）、25（土）、26（日）、12/2（土）、3（日）

時間 午後2時～4時

定員 各日10名（要申込）

持ち物 必要なポスターなど

協力 かもこ文庫・かもこの会

「銅版画」「絵本作り」とともに、10/18（水）9時より電話受付開始（先着順）

●絵本アニメ上映会●

【入場無料】

世界の名作絵本アニメを上映します。

開催日 左記カレンダーをご覧ください。
時間 午後1時～1時30分

11/3（金・祝）
ベッドのまわりはおぼけがいっぱい
11/4（土）
ごきげんなライオン
11/11（土）
どろんこハリー
11/18（土）
かいじゅうたちのいるところ
11/23（木・祝）
じてんしゃにのるひとまねこざる
11/25（土）
スイミー
12/2（土）
すてきな三にんぐみ

●会期中限定!ミュージアムグッズ●

ミュージアムショップではボローニャ展関連グッズを販売します。

クリアファイル、一筆箋、マグネットなどがわいくて実用的なアイテムをはじめ、入選作家の絵本なども販売します。人気商品は会期中中でも売り切れてしまうこともありますのでお早めに、当館友の会会員証の提示で割引になるものもありますので、ぜひ、覗いてみて下さいね!



「秋の所蔵品展」

9月23日(土)～10月22日(日)

◆ 第一・第二展示室

当館は現在、能登地方唯一の総合美術館であり、平成七年の開館以降、様々なジャンルの作品を古美術から現代美術に至るまで幅広く収集・展示してきました。

現在、当館に保管されている作品は、「池田コレクション」や、長谷川等伯を始めとした能登地方ゆかりの作品、そして寄託品を含めた約五三〇点となります。

これらの作品は、年に数回開催される「所蔵品展」で定期的に展示しています。本展では、次の二テーマで工芸品や絵画などを紹介します。



「備前舟徳利」

テーマ①「色々なやきもの」

「やきもの」とは土器・陶器・炆器・磁器の総称です。粘土をこねて器や像などを形作り、焼いて仕上げる工芸品で、古くは縄文土器から陶器、炆器を経てやがて堅牢な磁器が生まれました。

全国各地で、現在に至るまで膨大な数のやきものが制作され、用途も器からオブジェに至るまで実に幅広く、やきものは我々の生活に欠かせない存在になっています。

本テーマでは「池田コレクション」を中心に、織部焼や楽焼、九谷焼など色々なやきものを紹介します。



「織部木瓜形鉢」



「志野紅白茶碗」 荒川豊蔵

テーマ②「印象的な風景」

「印象的な風景」は時と場所、それから人の感じ方によって様々です。それはある時には具体的な場所、形であったり、またある時はまるで夢のような幻想的イメージであったりします。

様々な美術品に描かれる風景も多種多様で、各作品にはそれぞれ制作者の個性や想いが反映されています。

本テーマではそれらの心に残る風景が描かれた作品を絵画を中心に紹介します。



「夕日に映える縞馬」 上田珪草



「見透せぬ窓」 前田さなみ

◇ 観覧料

	一般	個人	団体
大高生	350円	280円	220円
中学生以下無料・団体は二十名以上です。	280円	280円	220円

※中学生以下無料・団体は二十名以上です。

市民ギャラリー 展覧会案内

彩の会&写団のと展

10月6日(金)～9日(月・祝)
但し、最終日は午後4時30分まで

七尾市を中心に活動する洋画グループ「彩の会」十二人と写真グループ「写団のと」十七人の第二回目の合同展。風景や人物、花など近作約八十点を展示発表いたします。

入場料 無料

主催 彩の会・写団のと

連絡先 加地 求 ☎(勤)0767(53)1500

七尾能面展2006

10月12日(木)～15日(日)
但し、最終日は午後4時まで

能面のもつ幽玄の美しさに魅せられた十人が、心を込めて制作した女面、男面、鬼神面等の能面約六十面を展示します。能面の解説や能面を着けてみる体験コーナーも予定しており、能面を身近に鑑賞して下さい。

入場料 無料

主催 面匠会、能登面打同好会

連絡先 森多雪山 ☎0767(22)1207

平成18年度 七尾市美術展覧会

10月26日(木)～29日(日)
但し、最終日は午後4時まで

能登地区の美術文化の振興発展をめざし、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門の力作を一堂に集めて一般の展覧に供し、地域文化の向上をめざします。公募展なのでご期待ください。

優秀作品から大賞、優秀賞、特選、佳作を選出し、北國新聞紙上で発表、10月29日(日)の午後

1時30分から石川県七尾美術館で表彰式があります。

入場料 無料

主催 七尾美術作家協会

連絡先 七尾美術作家協会事務局長 木本香泉

☎0767(52)4011

第63回北國写真展 七尾展

12月8日(金)〜10日(日)

年に一回行われるアマカメラマンが苦労に苦労を重ねて作り上げた作品。一見するに値するものである。作品者の内面を見抜いて欲しい、キラリ光る一瞬を…。

入場料 無料

主催 北國写真連盟・北國新聞社・富山新聞社

連絡先 宮崎 功 ☎090, 4320, 2178

アートホール催し物案内

ピアノ・エレクトーン発表会

10月8日(日) 開演 午後1時

見応え、聴き応えありの、とつても楽しい発表会です。ぜひ皆さん、聴きにきて下さいね。

入場料 無料

主催 リトル・ウイング

連絡先 前田 ☎0767(52)9943

パントマイム公演

Chicaのリトルピーシーズ

10月22日(日) 開演 午後7時

女性パントマイミストChicaによる公演です。何気ない日常から非日常への世界をユーモラスにファンタジックに描きます。CXボンキッキー

ズのガギグ原人他多数に出演。東京都公認のヘブナーティストです。

入場料 一般2,000円 高校生以下1,500円

主催 大人ののための小劇場・パントマイムを見る会

連絡先 藤井泰久 ☎090, 2377, 7608

doiceピアノコンサート

11月12日(日) 開演 午後1時30分

子どもから大人までの年に一度の発表会です。今年は北嶺中学フルバンド部のメンバー三人によるアンサンブルもあります。三人の講師演奏も楽しみ、どなたでも御来場下さい。

入場料 無料

主催 ピアノグループdoice

連絡先 井藤真理 ☎0767(58)1355

中條久美子・酒谷広重門下生

ピアノ発表会

12月3日(日) 開演 午前10時

生徒の練習の成果を発表する場として、毎年開いてます。ソロの他に、今回は、お父さん、お母さんにも参加していただき、何組かのファミリー演奏もあります。

入場料 無料

主催 酒谷広重・中條久美子門下生

連絡先 中條久美子 ☎0767(22)1412

当館主催の催し

定期ビデオ上映会

【入場無料】

毎回午前11時〜(上映時間約30分)

「シリーズ 北陸の工芸作家 石川の匠たち」

10/28(土) 即是色 人間国宝 三代 徳田八十吉

12/9(土) 漆が呼ぶ里 人間国宝 塩多慶四郎

友の会会員さんのコーナー

わたしと七尾美術館

会員No.9 細川 芳江(石川県志賀町在住)

小丸山台通りにさしかかりますと、ゆるやかなウエーブの建物、空に映え、支柱の通路から、館内へ入りますと、穏やかな雰囲気、漂い、心が安らぎます。

開館時の平成七年より会員となり、今まで絵画・書・彫刻・工芸品・写真などあらゆる芸術の傑作を鑑賞させていただきました。

七尾出身の長谷川等伯の



▲昨年の「鑑賞の旅」の様子

展覧会はシリーズとなり、昨年の国宝「松林図屏風」は能登の松林を彷彿させる感動を覚えしました。また、例年開催されるイタリア・ボローニャ国際絵本原画展は私たちに夢と未知の世界を与えてくれます。お子様同伴でぜひ、観ていただきたいと思ひます。

そして、第七回目を迎える「友の会鑑賞の旅」はいつも楽しみに待つております。会員の方々と和気あいあいと美術館等をめぐり、季節料理にも舌鼓を打って、日帰り小旅行を過ごします。

今後とも、益々の美術館のご繁栄と、職員・ボランティアの皆様へ感謝し、ご健勝をお祈りいたします。

次号(1月5日発行)に掲載する右記コーナーへの投稿文を募集します。締め切りは11月30日(木)です。掲載させていただいた方には、お好きな展覧会を無料観覧できる「特別招待券」をプレゼント!!詳しくは☎0767(53)1500まで。

等伯コーナー

長谷川等伯展「晩年水墨画の名著」

特別講演会報告

「長谷川等伯の変貌」

「松林図以後を中心に」

講師 橋本 綾子氏（日本美術史家）



◆等伯との出会い

私は大学院の学生の時、初めて「松林図屏風」（東京国立博物館蔵）に接し、こんなに美しい作品があるのかと深く心を打たれました。それまでは水墨画というものを模倣された形としてのみ理解していましたが、この作品の中に初めて作家の「人間」を感じ、とても身近に思えました。それで当時「松林図屏風」がどの様にして誕生したのか、そして作者の長谷川等伯とはどのような生涯を送ったのかに大変興味を持ち、私の等伯研究が始まったのです。

等伯の研究については、土居次義先生が第一人者で、私はその後を追う様な形で勉強しましたが、調べる内に等伯という画家は実に難しいという事が分かりました。等伯には信春時代、等伯時代があり、その間に十五年程の不明の時期があります。また、等伯は仏画や花鳥画、肖像画、山水画、更には禅宗絵画、動物画など幅広いジャンルを描いて、各々に当代一流の質の高さを持っているのです。等伯は誠にスケールの大きい画家であり、その研究には膨大な時間が必要であると思いました。

言い換えれば等伯は同時代の画家と比較しても、非常に才能豊かな画家であると思います。

◆等伯の「信春時代」

等伯は能登畠山氏の家臣奥村文之丞宗道の子として能登国七尾に武家の血を引いて生まれました。やがて染色を業とする長谷川宗清（法名道浄）の養子になり、道浄に絵を学んで七尾の絵仏師として活躍しました。道浄は早くから息子の才能を評価していたのでしよう。等伯の初期の作品には道浄の落款や印章が見られます。つまり若い絵仏師等伯に父親が力添えをしていたと思われ、親子の間には穏やかで良好な関係があり、北陸の自然の中で幸せな日々を送っていたと思われます。

この頃の作品は、しなやかな描線で輪郭を描き、その中に華やかな色彩を塗り込めるという大和絵の伝統を受け継いでいます。どの作品も染色屋の息子らしく、色彩感覚が豊かで装飾的な傾向を示しています。そして三十歳頃になると、描線は引き締まり色彩感覚も豊かで、この時点で画家として既に完成の域に達していたと思われます。

三十二歳で等伯は養父母を相次いで失い、妻と息子久蔵を連れて上洛、七尾の菩提寺本延寺の本山本法寺に滞在しました。同寺の住職日堯上人は、何の背景も無くこれといった師匠も持たない画家を独り立ちさせる為に、何くれとなく世話をした事でしょう。ところがその翌年に病弱の日堯上人は亡くなり、保護者を失って等伯は恩義ある日堯上人の肖像画を描き、姿を消してしまふのです。その後等伯がどの様に生きていたかは分かりませんが、当時の京都は不穏な情勢にありましたから、私は家族を持つ等伯が安住の地を求めて堺へ行ったのではないかと考えております。

◆自由都市・堺と等伯

さて、等伯が堺に滞在したとする資料は現時点では何も見つける事ができません。しかし研究者

の間では程度の差はあれ、おおよそ堺へ行つたであらうと考えられていて、私もその一人ですが、今後それを裏付ける資料が発見される事を期待しています。

当時堺は日明貿易の拠点として文明年間（一四六九〜八七）頃から栄えた港町で、富裕な商人達によって自治が行われていました。海外から多くの文物がもたらされて常に賑わい、中でも茶の湯が盛んで、人々は茶会を通して交流を行っていました。等伯もこの繁栄する近世都市の中で色々な人と繋がりを持つ事ができたと思われますが、特に重要なのは千利休との関係です。千利休は茶の湯に専心し、やがて織田信長、豊臣秀吉の茶頭をつとめて大きな権力を持ちますが、当時利休は堺に在住し、等伯はそこで利休と知り合った可能性があり、利休との出会いは等伯の一生を変える程大きいものであったと思われます。

等伯は利休などを通して茶席に出入りし、貴重な絵画を見る機会があつたかも知れません。当時茶会では中国の画家の牧谿、徽宗、玉潤、趙昌などの掛軸が珍重され、名のある茶会の床に掛けられていました。これらの名品は等伯に大きな刺激を与えた事でしょう。この豊かな数寄文化に触れ、人脈を得て等伯は画家としての成功を勝ち取っていくのです。等伯は堺滞在時に様々な作品を描いたと思われますが、この頃の作品を見ると、打ち込みのある漢画の線や狩野派の学習を思わせる形態が見られ、水墨画に関心を持っていた事が窺え、次の「等伯時代」に移る兆しを感じられます。

◆等伯時代

現在、「等伯」として制作した最初の現存作品は「山水図襖」（京都市圓徳院・樂家蔵）で、等伯が住職の留守中に許可無しに描いたとされる逸話がありますが、冬の北陸の山水風景が禿筆で柔らかに清々しく描かれています。また水墨画のみではなく絢爛豪華な金碧障壁画も描いています。

長谷川等伯一門が総力を結集した「祥雲寺障壁画」(京都市智積院蔵)は狩野派風の大画面による巨大な楓の近景描写でありながら、大和絵を基調として自然の息吹を豊かに表現し、狩野永徳の権威主義的な作品とは一線を隔しています。

「祥雲寺障壁画」制作には息子の久蔵も参加しており、その「桜図」は華やかで、若くして「清雅父に勝る」と賞賛された久蔵の力量が見事に表れています。等伯は久蔵に長谷川派の将来を掛けていたと思われますが、その久蔵が祥雲寺障壁画の完成間際に二十六歳の若さで亡くなってしまうのです。等伯の嘆きは如何ばかりであったでしょう。糟糠の妻は既に亡く、利休もまた二年前に秀吉の怒りに触れ自害しています。等伯は「利休居士像」(京都市不審庵蔵)や「春屋宗園像」(京都市三玄院蔵)などの優れた肖像画を描いています。その心に染みる様な画風は、その悲しみを如実に示しています。

その想いが等伯の代表作である「松林図屏風」を誕生させた、と一般にいわれています。「松林図屏風」がいつ頃描かれたのか、確かな年代は分かりませんが、この人生最大の嘆きの中から立ち上がって、故郷七尾の海辺の松に思いを馳せて描き上げたのではないかと私は解釈しています。そうでもなければこの作品の持つ激しい、しかし深い抒情は理解出来ないのではないのでしょうか。

◆「観音猿鶴図」と等伯

そして等伯の水墨画でよく知られているもう一点が「枯木猿猴図」(京都市龍泉庵蔵)です。この作品は元々加賀藩二代藩主前田利長の所持品だったといわれ、夜に画中の猿が利長の髪を引っ張ったので、利長が腕を切り落としたという逸話があり、「腕切りの猿」と呼ばれています。

この作品は牧谿の「観音猿鶴図」(大徳寺蔵)を参考にしているのは良く知られております。しかしこれらを比較してみると、構図などは似てい

ますが牧谿の場合、墨の濃淡で樹木の丸みや猿を見事に表し、猿の親子は写実的ながら、それがまるで宇宙の真理を体現する様な理想主義的な姿で描かれており、猿の姿を通して「母」そのものを表している様にも思われます。一方、等伯の猿は何とも可愛いらしく親しみやすい姿で描かれ、樹木には等伯の特徴である野太いぬらりとした線を引いたり、所々墨を跳ね散らかす様に用いて画面にリズムを与え、装飾的にしている様に思います。そこが牧谿と等伯の「猿猴図」の違いといえます。

それは「観音猿鶴図」の鶴にもいえる事で、牧谿の鶴は写実的で、重い体を支えるに足るしつかりとした二本の足。鳴く瞬間空気を吸い込み、口から喉へ、胸から尾羽へと肉体を通る様まで見事に描いています。一方「竹鶴図屏風」(出光美術館蔵)に描かれた等伯の鶴は、猿と同様に可愛くて清々しく、竹林の中から軽い足取りで出てきて、まるで歌い遊ぶ様に柔らかな感じで描いています。その違いは禅僧である牧谿と画家の等伯との違いといえまじょうか。或いは民族性の違いといえるかも知れません。

◆晩年の等伯

等伯は六十一歳の時、隣華院(京都市)に「山水図襖」を描いています。この頃になると牧谿の影響から離れ、仏画や「祥雲寺障壁画」を描いた等伯の本音というか、装飾主義的な感覚が水墨画の中にも表れます。

そして「大涅槃図」(京都市本法寺蔵)を描き、「自雪舟五代長谷川等伯」という落款を初めて使います。画風から見ると雪舟は剛直で構成的なの比べて、等伯は大和絵の下地もあり、華やかで抒情的です。これは一種の権威付けで一門の統合が目的だったといえるのではないのでしょうか。

ところで「大涅槃図」には多くの動物が描かれています。中に洋犬がいるのが珍しいのです。

「枯木猿猴図」でもそうでしたが、等伯が描く動物は永徳の権威主義的な勇ましい動物とは違って、人々の周辺にいる動物をありのままに描いており、動物に対する濃やかな愛情が感じられます。それは嫌われものの鳥に対しても同様で、等伯は晩年に「烏鷺図屏風」(川村記念美術館蔵)を描いており、鳥を主題にした優れた作品です。

最晩年になりますと、非常に鋭角的な鋭い筆致で、余計なものを全て排除した画風の作品が多くなります。「真珠庵襖絵」(京都市)や「天授庵襖絵」(京都市)などはその典型ですね。また「竹林七賢図屏風」(京都市西足院蔵)では、従来はその硬い描法を等伯の衰えと考えていたのですが、近年では中国の浙派を再学習した作品である、という説も出ており、だとすれば等伯の老いてもなお強い上昇志向に改めて驚かされます。

等伯の現存する最後の作品として七十一歳制作の「十六羅漢図屏風」(智積院蔵)があり、その粘り強い描線には等伯の執念を見る様な思いがします。その後等伯は江戸へ向かい彼地で没し、最後まで力を出し尽くして生きた一人の桃山時代の画家の一生がここで終わります。

◆最後に

今回、等伯を通して改めて再認識したのは、大和絵を完成させた日本人が水墨画という新しい絵画に触れた時、どの様に受け入れ、それをどの様に後世に伝えていったかという事でした。色彩本位の大和絵を描いていた民族に、中国の禅と結び付いた精神的な水墨画がもたらされた時、それをどの様に自家薬籠中のものにしたか、個々の作品に関してきっちり再検証する必要があると思います。それは中国と日本の絵画史の接点を正確に捉える事になり、それにより等伯という人、更には現在まで受け継がれてきた日本絵画の伝統をより深く理解できるのではないかと私は改めて思いました次第です。



これからの展覧会予定



「冬季・館蔵品展」

平成18年12月8日(金)～平成19年1月28日(日)

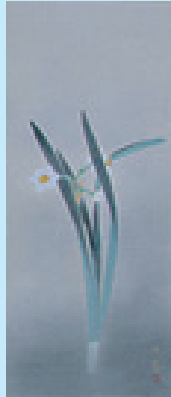
◆第1展示室

～日本の冬景色・室町から昭和まで～

日本は四季を持つ国です。日本人は春夏秋冬を感じ、楽しみ、生活してきました。寒さの厳しい冬でさえ、優しい太陽の光を、季節の動植物を愛しみ楽しむ方法を知っています。

本テーマでは石川県指定文化財「賦何船連歌」(文明15)を始めとした冬を楽しむ作品に加え、新年の吉祥文様などをあわせて、絵画や工芸を紹介しします。

「水仙図」金島桂華



◆第2展示室

～いろいろな形を楽しむ～

彫刻や工芸には、色々な形で表現された作品があります。また、絵画の中にも様々な形が描かれています。それらは、時には写實的にその物を写し取ったものであり、時には作者のイメージによって抽象的に表現された形として、私たちの目を楽しませてくれます。今回は“形”に焦点を当て、工芸・彫刻・絵画から織部焼の優品など約30点を紹介します。



「たーた(少女)」岩山豊郁

平成19年2月10日(土)～4月22日(日)

◆第1展示室

「春の名品展 ～茶道具に親しむ～」

七尾市名誉市民の池田文夫氏(1907～87)が蒐集した「池田コレクション」は、茶道美術品を中心とした内容で、1点1点の作品からは氏の作品に対する深い愛着が感じられます。

本展では「池田コレクション」より、色々な茶道具を紹介しします。



「黒楽茶碗 銘福笑」楽 惺入

◆第2展示室

「ポスターで楽しむ、ジャズの世界展」

平成8年、七尾市の姉妹都市であるモンレー市から、友好の記念として贈られた、モンレー・ジャズフェスティバルのポスター(リトグラフ)約50点を一堂に展示します。

ポスターを通して本場ジャズの世界をお楽しみください。

「1992.Jazz Greats」EARL NEWMAN



交通案内

飛行機……能登空港より能登有料道路利用約45分
車……金沢より能登有料道路利用約1時間20分
タクシー……JR七尾駅より約5分
徒歩……JR七尾駅より約20分
市内循環バス……JR七尾駅より西回りに(まりん号) 乗車約6分
ななおコミュニティバス……JR七尾駅より西コースに(くると7セブン) 乗車約10分

休館日のお知らせ

(10月～12月)

◆10月 2, 10, 16, 23～25, 30, 31
 ◆11月 1～2
 ◆12月 4～7, 11, 18, 25
 ◆年末年始 12/28～1/4

◎次号・第48号(冬号)は1月5日発行予定です。